

新生「JXTG Technical Review」の 発刊にあたり

JXTGエネルギー株式会社
代表取締役社長 社長執行役員

すぎもり つとむ
杉森 務



日頃より弊社製品をご愛顧賜り、大変ありがたく、厚く御礼申し上げます。

＜「JXTG エネルギー（株）」の発足＞

この4月1日にJXグループと東燃ゼネラルグループが経営統合し、新しい統合持株会社として「JXTGホールディングス（株）」が、そして、統合エネルギー会社として「JXTG エネルギー（株）」が発足いたしました。

私どもJXTG エネルギー（株）は、石油精製販売、石油化学、新エネルギー、研究開発などの部門を統合し、売上高10兆円を超える規模となったJXTGグループの屋台骨として、活動を開始しております。

弊社の使命は、JXTGグループが掲げる「地球の力を、社会の力に、そして人々の暮らしの力に、エネルギー・資源・素材における創造と革新を通じて、社会の発展と活力のある未来づくりに貢献します。」とのグループ理念の下、社会の根幹をなすエネルギーの安定供給を確保し、持続可能な社会を実現するというものであると考えております。その責任は極めて大きなものであり、社長を拝命した私自身、大変身の引き締まる思いで受け止めているところです。

さて、本誌は今まで、旧JXエネルギー（株）の技術広報誌「ENEOS Technical Review」として、半世紀以上に亘り、2千を超える読者の皆様に支えられてまいりましたが、新会社発足を機に、名称を「JXTG Technical Review」と変更して新しく生まれ変わることとなりました。しかしながら、生まれ変わっても、弊社が取り組む様々な分野における技術開発について、広く情報発信するという従来の意義は確実に継承し、弊社の技術をご理解いただくとともに、微力ながら皆様方の社業の発展や研究の進展にお役に立ちたいと考えておりますので、引き続き、よろしく願い申し上げます。また、今回の経営統合に伴って新たに本誌の読者になった方々もおられるかと思いますが、そのような方々も含めて、生まれ変わった本誌の内容について、新たな視点からご意見をいただければ幸いです。

＜弊社を取り巻く環境と弊社の取組み＞

弊社のコア事業である石油精製販売事業は、急速な国内需要の減少という大変厳しい現実に晒されております。今後も、国内人口の減少や、エコカーの普及などと相俟って、この傾向が継続することは確実です。

一方で、アジアでは、中国や新興国を中心に石油製品需要は堅調に推移することが見込まれておりますが、海外のコスト競争力の高い、大規模な製油所との競争が今後の大きな課題となってまいります。

こうした事業環境を踏まえて将来への成長戦略を描いていくために、弊社は、まずは、石油精製販売事業におけるサプライチェーン全体の競争力を徹底的に強化し、さらには、アジア諸国との国際競争にも打ち勝てる基盤を早期に構築していくこととしております。サプライチェーン全体の競争力においても、国際競争においても、私は、弊社の技術力が大きな武器の一つになると期待しております。

このような期待も込めて、弊社においては、事業変革に向けた技術面からの様々な取組みを進めております。

まず、弊社の中核事業であり、このたびの経営統合により国内の精製能力の5割以上を占めることとなった石油精製事業については、エネルギー供給構造高度化法二次告示に対応するとともに、最適な製油所体制の構築を通じて更なる競争力強化を進めるべく、経営統合直前の本年3月に、精製能力の一部削減を行いました。しかしながら、国内の石油製品需要の減少は依然として続いており、今後、海外展開を行っていくうえでも重要であることから、石油精製に関する独自技術を一層磨くこととしております。

また、石油化学の分野においては、従来からCRI (Chemical Refinery Integration) 戦略を推進してきており、既に、製油所と石油化学プラントの一体運営が進んでおりますが、今般の経営統合により、川崎地区において隣接していた旧東燃ゼネラル石油(株)の製油所と旧JX エネルギー(株)の石油化学プラントの一体運営ができることとなりましたので、今後は、CRI 戦略の効果を更に得ていきたいと考えております。加えて、石油化学製品は、石油からでないで作れず、かつ、付加価値の高い製品を生産すること、いわゆる石油のノーブルユースの中心的存在でありますので、これを技術開発のキーワードの一つとして取り組んでまいります。

潤滑油については、現在でも、自社の開発した世界最高水準のベースオイルと優れた配合技術を駆使して、高性能なエンジンオイルや駆動系オイルを製造・販売しております。今後は、この技術をさらに高め、各国のニーズに合わせた製品設計を行っていくことにより、国内はもとより、北米、中国、東南アジア、インドから、南米、ヨーロッパ、アフリカまで、いわば世界中をターゲットとした販路拡大を目指してまいります。

新エネルギー分野では、特に、水素事業に注力してまいります。水素は、使用時に二酸化炭素が発生しないことから、環境にやさしい未来型燃料として様々な業界の企業が技術・事業開発に取り組んでおります。石油業界では、製油所において多量の水素を安全に取り扱い続けてきたこと、また、サービスステーションにおいて、ガソリン、灯油、軽油といったエネルギーをお客様に販売してきたことにより、製造、輸送、販売における

多くのノウハウが蓄積されております。弊社としては、これらの強みを活かし、新たな技術課題も解決しながら、事業の発展を目指していきたいと考えております。

電気事業については、2016年4月の家庭用電力小売り自由化を機に多くの企業が事業を開始いたしました。弊社も、旧JXエネルギー(株)は「ENEOS でんき」ブランドを、旧東燃ゼネラル石油(株)は「my でんき」ブランドを掲げてこれに参入し、電気事業を拡大いたしました。弊社の電気事業における強みは、総合エネルギー企業としての「安心と信頼」と、自社電源を背景とした競争力の高い電力を供給できることにあると考えております。今後もこの強みを活かして、環境にやさしく競争力のある発電技術開発・電源開発を進めるとともに、さらなる事業の拡大に向けて、取組みを進めてまいります。

今回は、弊社が持つ技術の一部しか紹介しておりませんが、弊社は、今後も研究開発の努力を重ね、これまで培ってきた技術と革新的な技術との融合を図ることで、変化していくお客様・社会の要望に迅速に応え、これにより持続的な経済・社会の発展に貢献してまいります。

皆様におかれましては、旧来にも増して、一層のご理解とご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。